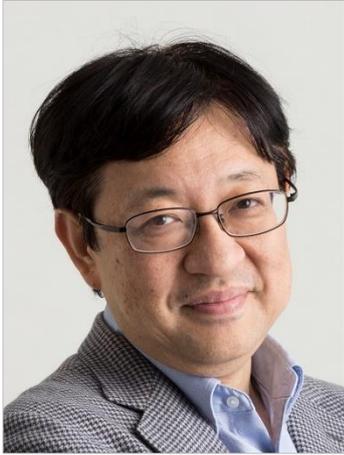


プロジェクトマネージャ紹介

氏名	北野 宏明	
ふりがな	きたの ひろあき	
所属	株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所 代表取締役社長 / 所長	
専門分野	システムバイオロジー、人工知能、ロボット、デザイン、エネルギー	

略歴：

1984年国際基督教大学 教養学部 理学科卒業。1991年京都大学博士号（工学）取得。1993年にソニーコンピュータサイエンス研究所へ入社し、2001年より代表取締役社長 / 所長を務めている。また、2001年にはシステム・バイオロジー研究機構を設立して会長に就任した。「ロボカップ」の提唱者の一人でもあり、国際委員会ファウンディング・プレジデントを務めているほか、World Economic Forum（世界経済フォーラム）AI & Robotics Council 委員、ソニー株式会社 執行役員などを兼任している。

メッセージ（400字程度でご記入ください）：

本質的に重要な問題をどのように解決するのか、どのような枠組みを作れば解決へと加速することができるのかがいつも頭の中にあります。

そこで、人工知能やロボットの研究をさらに加速させるためには、グランドチャレンジが必要だと考え、「2050年までに、FIFA World Cupのチャンピオンチームに勝利する完全自律型ヒューマノイドロボットのチームを開発する」ことを目標としたロボカップを立ち上げました。さらに現在は、「2050年までにノーベル賞級の科学的発見を行うAIシステムを開発する」ことを目標にしたチャレンジにも取り組んでいます。

AIの進化に伴い、私たちの社会、生活、文明は大きく変わりつつあります。このフロンティアの分野で、AIによる新しい可能性を見出し、ともに挑戦していく人たちに会えることを楽しみにしています。

メンター紹介

氏名	清水 亮	
ふりがな	しみず りょう	
所属	ギリア株式会社 代表取締役社長	
専門分野	深層学習、コミュニケーションアーキテクチャ	

略歴：

新潟県長岡市生まれ。高校 2 年生からコンピュータ専門誌への記事執筆を行い、大学在学中に米 Microsoft Corp. の次世代ゲーム機向け OS/SDK の開発に関わり、大学を中退。株式会社ドワンゴに参画した後、米 DWANGO North America 社の副社長を経て 2003 年に独立。2004 年度未踏ソフトウェア創造事業で天才プログラマー/スーパークリエイターに認定。2005 年東京大学大学院情報学環コンテンツ創造科学産学連携教育プログラム履修生（履修放棄）を経て、2009 年九州大学大学院 非常勤講師、2017 年東京大学 工学部 先端科学技術研究センター 客員研究員に就任。2017 年には内閣府知的財産戦略本部 検証評価企画委員を務め、2017 年 6 月より現職。

メッセージ：

AI は、コンピュータが本来目指していたものであり、現代のコンピュータのまさしく延長線上にあるものです。ところが AI の効果的な使い方をまだ誰も知りません。AI の効果的な応用については現在のところ、まったくの手探りに近い状態で、これはまさしくフロンティア分野であると言えます。

未踏の地のさらにその先として、AI フロンティアへチャレンジしたいという若者たちと一緒に頭を悩ませる日々思い馳せワクワクしているところです。

私はメンターというよりはみなさんと同じ目線で物事を考え、できるだけみなさんの能力や興味を引き出す指導方法を心がけたいと考えています。最先端の AI が指し示す可能性に胸をときめかせている人、技術が好きで夜も眠れないほど興奮してしまう人、世界を自分の手で変えてみたいと強く願っている人のご応募をお待ちしております。

メンター紹介

氏名	吉崎 航	
ふりがな	よしざき わたる	
所属	アストラテック株式会社 取締役 / チーフロボットクリエイター	
専門分野	ロボット、制御ソフトウェア	

略歴：

ロボット制御システム「V-Sido」開発者。2009年にIPA（独立行政法人情報処理推進機構）が実施した「未踏IT人材発掘・育成事業」に採択され、スーパークリエイターに認定される。水道橋重工の巨大ロボット「クラタス」など、数多くのロボット制御に携わったのち、2013年にアストラテック株式会社の立ち上げに参画する。ロボット革命イニシアティブ協議会 参与一般社団法人ガンダム GLOBAL CHALLENGE システムディレクターも務めている。

メッセージ：

AIでロボットを動かしてみたい方、募集します。

私をはじめAIを使ってロボットを動かしたいと思ったのは中学生のころでした。当時、Gで個人が作れるレベルの対話ソフトやGA、ニューラルネットワークをいくつか試した結果、先に駆動部周りのソフトウェアを開発する必要がある考え、V-Sidoを作りました。

私はAIの道からはそれてしまいましたが、AIを取り巻く状況が大きく変わった今、できることはかなり増えていると感じています。アイデア段階では、実現可能性は重要視しません。手法も流行りのものである必要はありません。AIに関する何らかの技術をお持ちで、それをロボットで活用したい夢をお持ちの方を募集します。